

長万部の

教育

コーナー



マイ水筒で元気いっぱい!

長万部マリア幼稚園

天気の良い日は園庭で虫取りに探検にと元気いっぱいかけ回っている子どもたち、今年度は園庭が夏休み以降使用できなくなってしまうこともあり、園外活動が増える事を予想し、運動会の景品は水筒を準備しておりました。そこにまさかの新型コロナウイルスの流行となり、個人持ちの水筒が今では大活躍です。一人ひとり飾り付けをして世界にたった一つのオリジナル水筒に変身しました。外遊びや散策・畑や花壇の作業の際に必ずマイ水筒を持って満足気に出かけていく姿があります。水筒片手に長万部町の中



で色々な発見をしながら、幼稚園の新たな一歩にみんなで心を合わせて進みながら楽しい1年にしていきたいです。

学校再開、安心・安全を目指して

静狩小学校

6月1日、臨時休業から学校が再開し、「新しい生活様式」を踏まえた教育活動がスタートしました。

学校再開にあたり、新型コロナウイルス感染症の予防に関して、休業前に指導していた内容も多く含んでいました。が、繰り返すことで子どもたちにしっかりと身に付くと考

え改めて指導しました。

また、子どもたちの生活リズムを整えるために、できるだけ通常通りの日課になるように配慮しました。六月初めの週は、午後の授業で少し疲れを見せていた子ども、寝る時刻を早くするなど、自ら生活リズムを整えていました。

さらに、学習内容も感染リ

学校再開 花に負けない笑顔で

長万部中学校

6月1日、ようやく学校が再開しました。予期せぬ長い臨時休業。生徒たちにとつては休業とはいえ、自粛生活は初めての経験だったと思いま

す。大人でも戸惑うような状況の中、それでも生徒たちは家庭学習課題に取り組み、自主的に運動するなど、大変立派な生活を送ってくれました。再開初日はほとんど欠席もなく、友達に会い、嬉しそうな顔が揃い、学校の中が一気に明るくなりました。

「学校の新しい生活様式」は、以前のように額を集めて話し合い、学び合うことがままならず、給食の時間に楽しく語り合うこともまだできま

せん。しかし、長中生徒はそれでも笑顔です。再開後に生



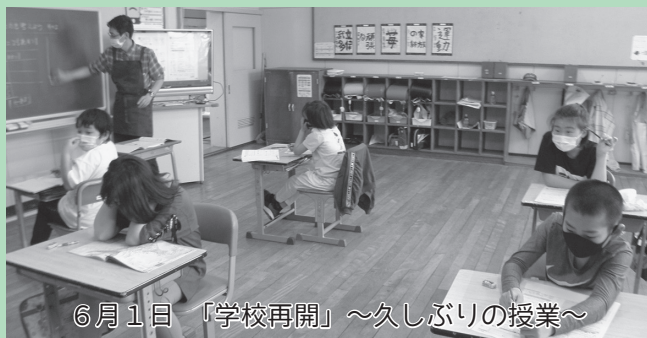
徒達が花壇に花の苗を植えました。この花に負けない笑顔が毎日学校に咲き誇るよう職員一同努力して参ります。ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

スクの高いものは避けながら、できるだけ計画していた内容は実施するようにしています。特に、「野菜の苗植え」など季節に関係する学習や活動は優先して行っています。これから「夏」の暑さが本格化してきます。「新型コロナウイルス感染症」対策に加え、「熱中症」対策も万全にしながら、子どもたちがより安心して学べる環境を整えていきたいと考えています。

写真で見る 学校の様子

静狩小学校

長万部小学校



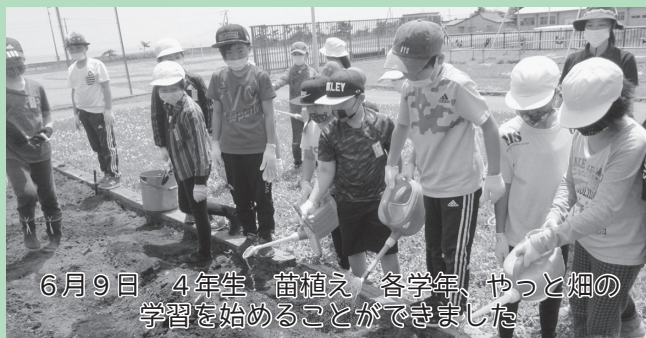
6月1日 「学校再開」～久しぶりの授業～



6月4日 1年生 交通安全教室 横断歩道や踏切の渡り方を交通指導員の方・警察の方から教わりました



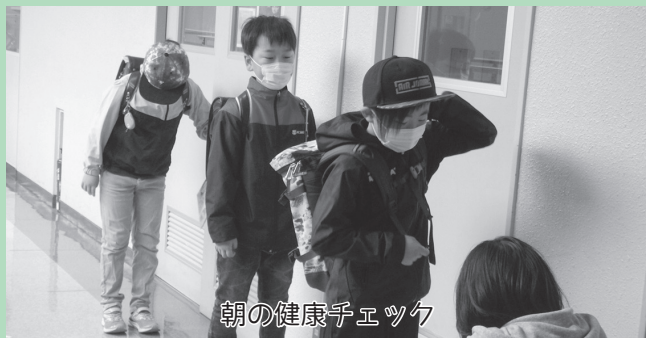
6月3日 「総合的な学習の時間」
～大きく育て！苗植え開始～



6月9日 4年生 苗植え 各学年、やっと畑の学習を始めることができました



6月9日 「朝運動」～3分間走で持久力アップ！～



朝の健康チェック



新しい学習指導要領

長万部中学校長

渡邊 直樹

今年度から小学校で新しい学習指導要領が全面実施されました。（中学校は令和3年度、高校は令和4年度から。）学習指導要領とは、学校で行う学習内容等を国が定めるもので、だいたい10年ごとに改訂されます。今回の学習指導要領は、現在

の子どもたちが20～30年後（もつと先も見据えて）の社会を生き抜いていくために必要な力の基盤を身に付けられるように作られています。ではその頃の社会はどのような姿になっているのでしょうか。2050年には世界の人口は急増しますが（特にアフリカ、インド）、日本の人口は現在の8割を切るまでに急減するとの予測です。また、アフリカ諸国の平均年齢は約25歳ですが、日本では約53歳で人口の4割が65歳以上となっているそうです。（その頃、今の中学生は40代前半の働き盛りです。日本国内にも多くの外国人労働者がいて、ともに生活をしていかなければならないということ）「会社の上司・経営者は外国人」ということも少なくないかもしれません。そして、少ない若者が多くの高齢者を支えていきます。）さらに、多くの子どもたちが、今はない職業（これから現れる新たな職種ということ）に就くことになり、仕事も自動化され、2045年にはAI（人工知能）が人類を超え

るだろうとの指摘がされています。（仕事の質や仕方が大きく変化してくるということです。）このような急激な社会変化の中でも、未来の創り手となるために必要な力を確実に備えることが求められているのです。グローバル化の急速な進展に伴い、英語の能力はどのような職業に就いたとしても必要となり今以上にその能力の向上が求められます。価値観の多様化や外国人労働者の増加等に伴い、答えが一つではない道徳的な課題に一人一人が自分自身の問題と捉え、向き合うことが求められます。

これらの問題に対応する学校教育を実現するためには、「よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を作ろう」という目標を学校と社会が共有する「ことが必要であり、学校が社会や世界と接点を持ちつつ、多様な人々とつながりを保ちながら学ぶことができる、開かれた環境となる」ことが不可欠です。（いわゆる「社会に開かれた教育課程」が重要になってきます。）これからの時代を生きていくために必要な力とは何かを学校と社会とが共有し、共に育んでいくことが必要になるのです。地域の皆さんに、今、学校が取り組もうとしている教育活動に興味をもっていただくことがその第一歩と考えています。